



The Project on Youth Development in Disaster Risk Reduction through Cross-Learning Programs between High School Students in the Philippines and Japan



Hyogo Prefectural Himeji
Commercial High School



一般社団法人 東京倶楽部
THE TOKYO CLUB

フィリピンと日本の高校生の交流を通じた 防災分野の若手人材交流・育成事業

助成：一般社団法人東京倶楽部



実施報告：特定非営利活動法人 SEEDS Asia

要約

事業名 : フィリピンと日本の高校生の交流を通じた防災分野の若手人材交流・育成事業

実施期間 : 2024年4月1日～2024年10月31日

事業の概要 :

本事業は日本とフィリピンの高校生が気候変動や大規模災害というグローバル課題を、リアルな体験を通じて理解すること、そして地域や文化を超えた共創的な防災の取り組みについて考え、実践力を高めることで防災の担い手を育成することを目的として実施しました。活動概要としては、①日本とフィリピンの高校生によるオンライン交流プログラムの実施（5回）②日本・フィリピン気候変動・防災フォーラムの開催（57名参加）③表敬訪問（現地防災関連機関）④視察（気候変動の影響が身近に感じられる地域・ボホール地震震源地や遺構）で構成された、防災をテーマとする海外視察・交流プログラムを実施しました。

活動内容のショート動画はこちら <https://youtu.be/XGoGMXSqNkI>



事業の成果 :

事業を通じて育成したい下記6つの能力について、両国の高校生によるアクションプランと質問票を通じて、能力が強化されたことを確認することができました。

1) 両国における防災文化の醸成と防災の担い手増加

参加した高校生は、気候変動の影響は今後も継続し悪化する傾向にあることを学び、予防（温室効果ガスの削減）と適応（発生しうる異常気象や洪水への対策）があらゆるレベルに必要な状況にあることを、交流と視察という体験を通じて実感することができました。事業のアウトプットとして「アクションプランの策定」をおこない、現在それぞれの国・地域で高校生が防災の担い手として実践しています。

2) 地球市民としての意識の芽生え

気候変動など地球共通の課題について共に考え、両国間の高校生同士が対話を重ねたことにより、両国の高校生に同士としてのつながりが生まれました。また、同じ事象であっても、その対策や制度、慣習の違いを知り、お

互いの情報を共有し学び合うこと、尊重し助け合うこと、身近なところから活動を始めることの重要性を高校生が強く認識できるようになりました。

3) 若者参画の重要性を発信

本事業で得た知見や経験を、参加した生徒が「個人的な体験」のみで終わらせることなく、参加した高校生がアクションプランを策定・実行することで課題解決に向けた実践を担っています。また、こうした若手の担い手を一人でも多く増やしていくことが、地域防災における高校生の役割を変容させ、地域の防災力向上、地域の持続性に寄与します。

4) 異文化体験による多文化理解と配慮の必要性の学び

両国の高校生が異文化体験を通じて、多文化理解において重要な視点として掲げたポイントは「交流したいという気持ち」「言語（英語）を学び慣れること」「信頼関係を構築するよう努めること」「相違点を見つけること」でした。交流において実践した工夫や学びが、日本における多文化理解・多文化共生社会の実現にも寄与することが期待されます。

5) 地方の持続可能性を推進

両国の参加生徒は、グローバルな課題である気候変動が、地域（ローカル）課題と直結していることを、両国の現状の共有によって知見を深めていきました。これによりグローバル課題の解決にも寄与しながら「自分たちのまちを守るための活動を進めていきたい」という意欲が深まったことが明らかとなっています。

6) 日本とフィリピンの関係強化

両国の高校生が交流・視察などの共通体験によってつながり、学び合うことで、それぞれの国への関心が高まったことが把握できました。双方向の学びは、単なる知識の交換にとどまらず、お互いの文化や社会への理解を深める貴重な機会となりました。若い世代が互いに学び合い、支え合うことで、日本とフィリピンの関係がさらに強くなり、国際協力への担い手として発展していくことが期待されます。

目次

I.	<u>ごあいさつ</u>	1
II.	<u>事業概要</u>	4
III.	<u>事業の背景・目的</u>	7
IV.	<u>活動内容の詳細</u>	9
V.	<u>事業成果</u>	22
VI.	<u>実施体制・スケジュール</u>	38

I. ごあいさつ

1. 謝辞

本事業では、SEEDS Asia が関わるアジアの国々の中でも最も災害が多く、台風や地震などハザードに共通性・関連性の高い日本とフィリピンの高校生を対象として、地域や文化を超えた共創的な防災の取り組みについて考える機会を創出しました。

気候変動は現在進行形の事象であり、記録が更新されている「未体験」の事象です。過去の経験や教訓に依拠することができない状況に対峙していくためには、①予測研究について知ること、②平常を知ることによって異常を知ること、③そして他の国や地域から学び協力し合う関係を構築していくことが有効であると考えています。

こうした背景から、若者の防災への関心と気候変動を含めた理解の促進、効果的な災害対応、そして復旧や復興に向けた心構えと実践力を高める事業を兵庫県立姫路商業高校（地域創生部）の皆様と共に実施しました。共に活動を進めてくださった兵庫県立姫路商業高等学校（地域創生部）のみなさま、趣旨にご理解・ご賛同くださりご支援をいただいた一般財団法人東京倶楽部のみなさま、本事業の申請にあたりご推薦をいただきました東京倶楽部会員 藤本進様、京都大学防災研究所教授 牧紀男先生に心より深く感謝を申し上げます。

SEEDS Asia について

SEEDS Asia（本部：神戸市）は、**災害に負けない持続可能な社会の構築を目指し、人づくり・まちづくりをミッションとする防災専門 NPO** です。2006 年から兵庫県神戸市を拠点とし、アジアにおける大規模災害で被災した最も脆弱な立場にある人々に、**命・まち・暮らしを守るための適切な手段や技術、知識やスキル、そして他者とのつながりをもたらす活動を展開**してきました。

主な活動として、①災害リスクの理解促進（合計 56 万人への啓発活動により防災の基礎知識・技術を普及）、②レジリエンスを高める防災への投資（5 つの建設案件を通じ、住民のより安全な環境を確保すると共に、4 か国で防災力調査を実施し、コミュニティや自治体の防災力を「見える化」）、③災害リスクガバナンス強化（防災の担い手を 3,200 人輩出）、④備えの強化と「BBB（Build Back Better）、より良い復興」（災害時の教育継続、生活支援を 17,000 人に提供）が挙げられます。

このように幅広い防災に係る支援活動は、人々やまちに直接的に裨益するだけでなく、国連で定められた 2030 年を目標とする持続可能な開発目標（SDGs）や仙台防災枠組（SFDRR）など、**グローバルターゲットにも寄与する**ものです。中でも、本事業によって実現した、「**中学生・高校生の海外研修・課題活動のプログラム開発・実施**」は、**SEEDS Asia 2030 年計画**における災害リスクガバナンス向上の一環として、「**強化すべき活動**」として位置付けられており、**今後も継続・普及を図る予定**です。

2. 一般社団法人 東京倶楽部 川崎敏秀様からのお言葉

(最終報告会での冒頭ご挨拶内容：ご発言の原文は英語)

皆さん、こんにちは。マアヨン・ハポン。

本日は、このオンライン成果報告会でお話しできることを大変嬉しく思います。

私は、元外務省在セブ日本国総領事の川崎敏秀と申します。外務省では、それ以前に、国際緊急援助官として日本緊急援助隊の団長を務め、2017年のメキシコ大地震の際には国際緊急援助隊捜索救助チームを率いて派遣され、昨年3月にはトルコ大地震に際して国際緊急援助隊医療チームを率いました。現在は東京倶楽部の支配人をしています。まず、東京倶楽部は1884年に当時の日本社会の国際理解を促進し、先進ヨーロッパ諸国と対等に付き合うことを目的として、明治天皇の御導きのもと、当時の井上馨外務卿の主導で設立され、140年にわたりその目的を守り続けています。

現在でも東京倶楽部は、国際的な文化、科学、芸術の交流活動への助成金や、このプロジェクトである「フィリピンと日本の高校生の交流を通じた防災分野の若手人材交流・育成事業」への助成金など人材育成のための助成金、奨学金を提供しています。

また、何よりも、先ほど申し上げましたように、外務省の災害救援上級専門家であり、国際緊急援助官として2017年にメキシコに、昨年はトルコに国際緊急援助隊団長として派遣され、メキシコとトルコの両方で発生した大地震の被災者の捜索救助活動と救急医療によって人命救助にあたりましたので、防災及び災害支援に強い関心と懸念を持っています。

本日は、ボホール州のイナバング北中央高校と兵庫県の姫路商業高校の皆様とお会いできて大変嬉しく思っています。

兵庫県とボホール州は、大震災や巨大台風などの大規模自然災害を経験しており、災害時にどのように行動し、そして被災者のニーズにどのように対応するかを経験しており、そうした経験を共有することはとても大切で意義のあるものと思います。

このプログラムを通じて、皆さんが経験を共有し、お互いを理解し、特に文化や災害の違いを理解し、将来必ず起こる大災害に備えて、防災と被害軽減のために一緒に、または個別に何ができるかを考え、見つけられることを願っています。ありがとうございました。ダガン・サラマツ。幸運を祈ります。

Good afternoon. Maayong Hapon. I am very glad to speak at the opening of this online Wrap-up meeting.

My name is Toshihide Kawasaki, former Japanese Consul General to Cebu, Philippines, and used to be a Leader of the Japan Disaster Relief Team and I was dispatched to lead the Search and Rescue Team to Mexico in 2017 and lead the Emergency Medical team to Turkey last year. currently I took the office of Deputy General Manager of the Tokyo Club which was established in 1884 to promote international understanding among Japanese society at that time to deal with advanced European countries with the initiative of then Foreign Minister Kaoru Inoue with the guidance of Emperor Meiji, and has continued to keep its objectives for 140 years. Even now the Tokyo Club still arranges many events to promote international goodwill, cultural exchange including awarding grants for cultural, scientific and artistic activities, and offering scholarships for academic studies and human resource development, such as a grant to this project "Youth Development in Disaster Risk Reduction through Cross-Learning Programs between High School Students in the Philippines and Japan."

Beside that, I have a keen interest and strong concern on Disaster Risk Reduction because, as I said, I was a senior expert on disaster relief of the Ministry of Foreign Affairs of Japan and was dispatched as the leader of the Japan Disaster Relief Team to Mexico in 2017 and to Turkey last year to rescue and save lives by means of Search and Rescue and Emergency Medical Care for the people suffered from huge earthquakes both in Mexico and Turkey.

In this connection, I am so happy to have you all today from Inabanga North Central Integrated High School of Bohol and Himeji Commercial High School of Hyogo Prefecture.

Both of Hyogo and Bohol had experienced large scale natural disasters such as earthquakes and super Typhoons and now will share experiences how to act and move at the time of disaster and how to respond to the needs of people suffered.

I would like to express my hope that, through this programme, you would share your experiences, understand each other, especially differences of your culture and nature of disaster and find what you could do together or separately for disaster prevention and mitigation in the event of major disasters that will be sure to come.

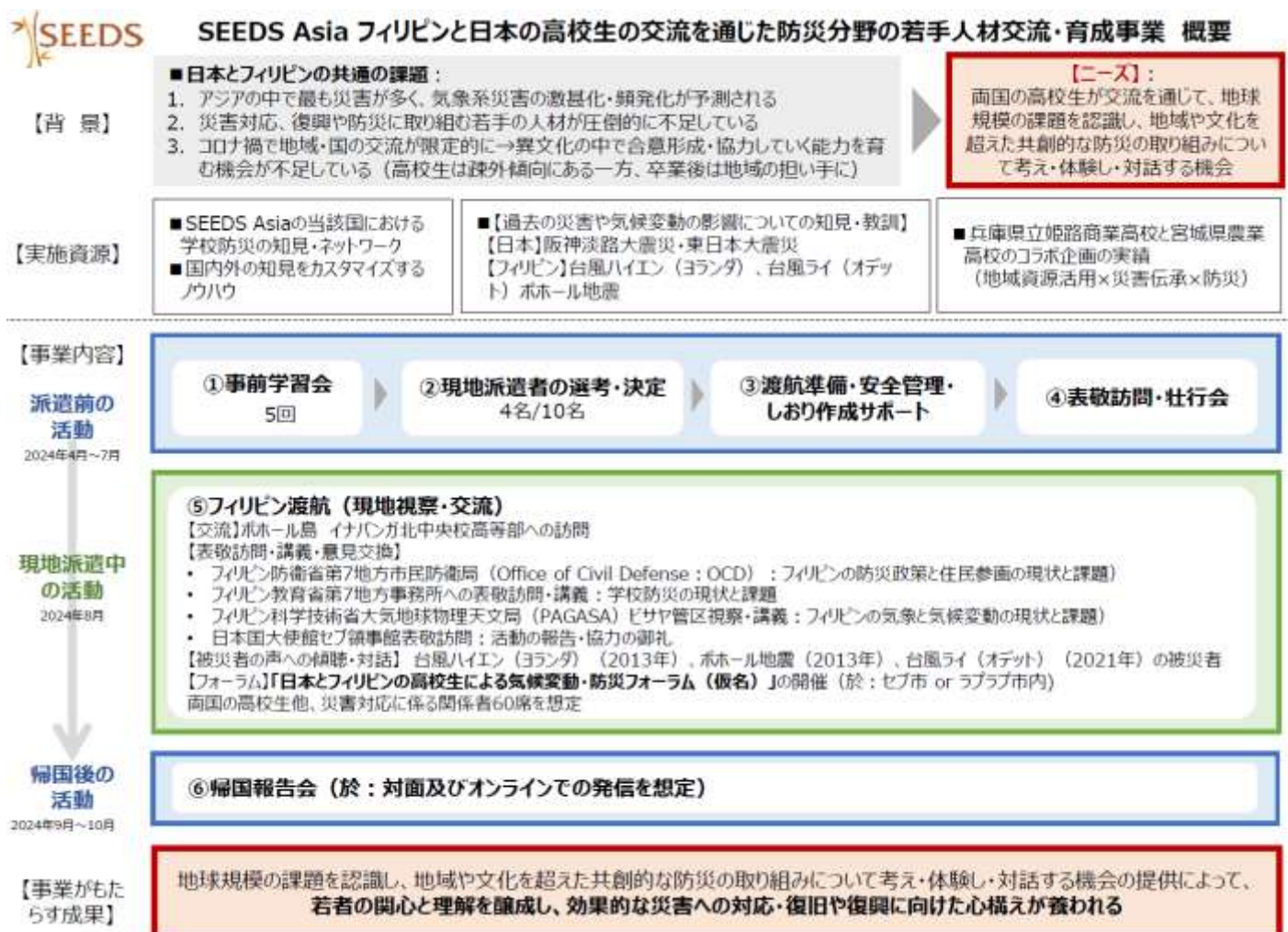
Thank you. Daghang Salamat. Enjoy ug good luck.

II. 事業概要

1. 事業概要

2023 年度に兵庫県立姫路商業高等学校（地域創生部）からの相談・要請、並びにフィリピン教育省第 7 地方事務所他、関係機関からの総意を受け、SEEDS Asia は学校防災の実績・知見・ネットワークと、国内外の知見をカスタマイズするノウハウを基盤として、防災をテーマとする海外視察・交流プログラム「フィリピンと日本の高校生の交流を通じた防災分野の若手人材交流・育成事業」を実施しました。

高校生が気候変動や大規模災害というグローバル課題を、**リアルな体験を通じて理解すること、そして地域や文化を超えた共創的な防災の取り組みについて考え、実践力を高めることで防災の担い手を育成することが**目的です。



事業概要表

<p>提案事業名</p>	<p>フィリピンと日本の高校生の交流を通じた防災分野の若手人材交流・育成事業 (2024年度)</p> <p>Youth Development in Disaster Risk Reduction through Cross-Learning Programs between High School Students in the Philippines and Japan (FY 2024)</p>
<p>対象校</p>	<p>兵庫県立姫路商業高等学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 兵庫県 EARTH 員が所属している学校であること ● 生徒主導で防災への取り組み（防災に係る商品開発や語り部の研究）を実施していたこと ● 海外渡航や英語でのコミュニケーションに高い意欲があること <p>イナバंगा北中央校 Inabanga North Central Integrated School (INCIS)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● SEEDS Asia が協力関係を構築してきたフィリピン第 7 管区（セブを中心とする中部ビサヤ地方）内のモデル校として選定されていること
<p>助成対象期間</p>	<p>2024 年 4 月 1 日～2024 年 10 月 31 日</p>
<p>活動内容 (2024 年度 実績例)</p>	<p>1. オンライン交流プログラムの開発・実施 (5 回)</p> <p>1 回目：学校紹介・挨拶 + 自分のまちの魅力・リスク 2 回目：身の回りのリスク・課題への対応 3 回目：自分、わたしたちにできること + こんな準備しています（渡航直前交流） 4 回目：交流・対話を通じてこれから実施したいこと（渡航後交流）・報告会準備 5 回目：成果報告会</p> <p>2. 日本・フィリピン気候変動・防災フォーラムの開催（計 57 名参加）</p> <p>① 参加者の活動紹介と各地の気候変動に係わる現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 災害を振り返ろう～台風ライ（オデット）ボホール地震、台風ハイエン（ヨランダ） (※) の被災者と語り合う～ (※) 台風ハイエン（ヨランダ）の実施は語り部の移動・日程に基づき、表敬訪問時に実施 <p>② 行政・防災担当部局からの気候変動・気候危機時代における若者への期待 ③ 気候変動対応・防災アクションプラン会議 6 分（3 グループ） (アイデアソン→プロブレムトゥリー→アクションプラン)</p> <p>3. 表敬訪問（一部講義含む）：</p> <p>① フィリピン教育省第 7 地方事務所への表敬訪問・講義：学校防災の現状と課題</p>

	<p>② フィリピン科学技術省大気地球物理天文局（PAGASA）ビサヤ管区視察・講義：フィリピンの気象と気候変動の現状と課題</p> <p>③ 日本国大使館セブ総領事館表敬訪問：ご挨拶・活動の報告</p> <p>④ フィリピン防衛省第7地方市民防衛局（Office of Civil Defence：OCD）：フィリピンの防災政策と若者参画の現状と課題（予定変更のため中止）</p> <p>4. 視察：</p> <p>① セブ州ラプラプ市の防災オリンピック：災害対応に係る技術を競い合う運動会</p> <p>② チョコレートヒルズ</p> <p>③ ターシャ サンクチュアリ（野生生物森林保護区）</p> <p>④ マクタンシュライン（マゼラン記念碑・ラプラプ王勝利記念公園）</p> <p>⑤ サント・ニーニョ教会の鐘（ボホール地震）</p>
<p>参加・協力組織</p>	<p>日本側：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 兵庫県立姫路商業高等学校（地域創生部） ● 一般社団法人東京倶楽部 ● 個人寄付をお寄せいただいた方々 ● 日本国大使館セブ領事館 <p>フィリピン側：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● イナバंगा北中央校高等部（生徒会：Supreme Secondary Learner Government (SSLG/INCIS) /環境部 Youth for Environment in Schools-Organization (YES-O/INCIS) ● フィリピン教育省第7地方事務所 ● フィリピン科学技術省大気地球物理天文局（PAGASA）ビサヤ管区 ● ラプラプ市防災管理局（Lapu-Lapu City DRRM Office） ● フィリピン教育省ラプラプ市地区事務所(DepEd Schools Division Office of Lapu-Lapu City) ● 台風ハイエン、台風オデット、ボホール地震で被災された語り部のみなさま

※申請時には宮城県農業高校の生徒、姫路商業高等学校生徒、SEEDS Asia 職員合わせて10名の予定だったが、2024年度には能登半島地震への国内ボランティアに取り組み、海外派遣は姫路商業高等学校から生徒3名、1名教員とSEEDS Asia 1名（計5名の派遣）となった。

III. 事業の背景・目的

目的

本事業では若者の防災にかかわる関心と理解、効果的な災害対応そして復旧や復興に向けた心構えと実践力を高めることを目的として実施しています（防災の担い手育成）。

背景

- 1) アジアの中で最も災害が多く、気象系災害の激甚化・頻発化が予測される
- 2) 災害対応、復興や防災に取り組む若手の人材が圧倒的に不足している
- 3) コロナ禍で海外への渡航機会が減少し、リアルな異文化の体験、合意形成・協力していく能力を育む機会が不足している
- 4) 地域の防災の担い手として活躍が期待できる若者（特に高校生）が疎外傾向にある

本事業の対象地であるフィリピンは、**日本と同じく環太平洋造山帯に位置し、地震災害や火山噴火が頻発**しています。また、7,000 を超える島々で構成された群島国であることから、気候変動による海水面の上昇や海水温の上昇による台風・高潮の影響を受けやすい地理的状況にあります。中でも、セブ州を中心とした中部ビサヤ地方は、2013 年に発生したスーパー台風ハイエン（現地名ヨランダ）による高潮被害や、2021 年のスーパー台風オデットによる強風被害を例として、**気候変動による気象系災害の頻発化・激甚化の深刻な影響**を受けてきました。

SEEDS Asia は、2013 年に中央ビサヤ地方に襲来した台風ハイエン発生後の緊急支援（ジャパン・プラットフォームによる資金協力）を契機として、現地教育省第 7 地方事務所（中央ビサヤ地方管轄）並びに兵庫県教育委員会と約 10 年に亘って連携・協働し、国際協力機構（JICA）による資金協力の下、教育省職員や学校教員を対象とした防災教育・体制強化に関わる事業を実施して参りました。こうした支援実績により、フィリピンにおける学校での正規科目への防災学習の導入や、学校の防災管理における組織化や計画において確実な効果を生み出すと同時に、現地教育省とは現地の状況やニーズを迅速に把握できる強固な関係が構築されてきました。

一方、気候変動/危機といった地球規模の課題が、異常気象という形で、わたしたちの目の前に顕在化しています。今後、気候変動の影響が想定を超える未知の領域へと突入し、**さらなる気象系災害の激甚化・頻発化が予測される中、防災や復旧・復興に取り組む若手の人材が圧倒的に不足している**という課題は、日本もフィリピンも共通しています。

この背景には、これまでの防災研修・活動が、主に制度の構築や計画の立案、あるいは初動対応に特化した体力を要する技術獲得に特化したもので、行政官・自治会・自主防災会メンバー（いわゆる「伝統的参加者」と呼ばれる人々）を対象としてきたことが挙げられます。このような既存のガバナンス構造を尊重するアプローチは、制度や組織強化としては有益である一方、意図せざる結果として、「伝統的参加者」への過度な依存や無関心を一般の人々に生み出してしまうことが、研究¹としても明らかになっています。

こうしたジレンマを打破すべく、日本では中学校が避難所と指定されている場合に中学生を避難所の設営役と位置付け、地域の総合防災訓練を地域と共同で体験させる先駆的な事例が出始めています（宮城県気仙沼市など）。しかし、**高校生においては通学圏が広範囲に及ぶことから、地域防災活動への参画機会が非常に限定的で、地域防災の担い手という役割から疎外される傾向**にあります。

加えて、2020年以降の3年間は新型コロナウイルスの影響により、地域との協働機会や国際交流などの**異文化に触れる機会は非常に限定的**となりました。今後、**さらなる気候変動の影響と複雑化する国際情勢を思うとき、多様な背景や文化を持つ人々対話を重ね、合意形成・協力しながら地球規模の課題に対応していく新しい時代の防災の担い手を育成していくことは、もはや喫緊の課題**です。

気候変動の影響をより受けることが確実となっている**次世代・将来世代に、リスクを含む現状の理解を促進することは現世代の配慮義務の一つ**です。本事業を通じて、**気候変動や大規模災害といった地球・人類共通の課題について経験や体験を共有・協議する機会を生み出すことによって、地球と地域で発生している課題に目を向け、探究し、解決・改善策を見つけていくチカラを醸成**することを念頭に、兵庫県姫路商業高等学校（地域創生部）、イナバング北中央校の皆様と共に事業を企画しました。

¹ Chandrasekhar, D., Zhang, Y., & Xiao, Y. (2015). Nontraditional Participation in Disaster Recovery Planning: Cases From China, India, and the United States. *Disasters*, 39(3), 373-384. <https://doi.org/10.1080/01944363.2014.989399>

IV. 活動内容の詳細

1. オンライン交流プログラムの実施（2024年4月～10月）



Figure 1 : 事業成果報告会（公開でLIVE配信）の様子

1 回目：学校紹介・挨拶+自分のまちの魅力・リスクの紹介（4月）

高校生が英語で資料を作成しスピーキングの練習をおこなった上で、日本側・フィリピン側それぞれ、自己紹介と学校の案内をしながら紹介しました。加えて、地形・気候・歴史に基づく地域の特産物や地域の魅力と共に、災害被害の大きさを左右する地域課題・脆弱性について紹介しました。

2 回目：身の回りの課題への対応（5月）

災害被害を大きくする脆弱性（地域課題）の要因や結果を掘り下げると共に、課題について誰がどのような活動を実施しているのかを調査し（インタビュー・文献調査などを含む）発表を行いました。

3 回目：自分、わたしたちにできること+こんな準備しています（渡航前オリエンテーション）（7月）

2回目までの話し合いの中から深めたいトピックを質問票から抽出し（今回は緊急持ち出し袋について）発表しました。また、渡航前の交流として、旅程やプログラムの準備状況を確認め合うと共に、現地で便利なものなどについても意見交換がなされました。また、冒頭には東京倶楽部の川崎様よりお言葉をいただきました。

4 回目：交流・対話を通じてこれから実施したいこと（渡航後のアクションプランフォローアップ）（10月）

現地視察後の交流会として、アクションプランに関する意見交換会をおこない、アクションプランを仕上げていきました。気候変動についてみんな知っているのに行動できないのはなぜか、を掘り下げたうえでアクションプランに工夫を重ねることになりました。

5 回目：事業の成果報告（公開ライブ配信を含む）（10月）

事業を通じて得た体験と学び、成果としてのアクションプランの発信を行いました。第4回目で共有し、意見交換を経て完成したものです。

2. 日本・フィリピンの高校生による気候変動・防災フォーラムの開催（2024年8月）

2024年7月28日に開催した「日本・フィリピンの高校生による気候変動・防災フォーラム：JAPAN-PHILIPPINES YOUTH FORUM ON CLIMATE CHANGE ADAPTATION AND DISASTER RISK REDUCTION」には、フィリピンのイナバंगा北中央校高等部生徒会・環境保全クラブ YES-O と、日本の兵庫県立姫路商業高等学校地域創生部の代表メンバー、イナバंगा町自治体（LGU）の行政官や災害対応に関連する消防署の方々など、計57名が参加し、それぞれの経験を共有したり、語り合う有意義な時間となりました。

時間/Timing	活動内容	Activities
9:00 - 9:30	開会式 - 国歌斉唱 - 開会のことば（SEEDS Asia） - イナバंगा町役場の辻ことば（町長） - 事業目的・流れの説明（SEEDS Asia）	Opening Ceremony - National Anthem/Prayer - Welcome remarks – SEEDS Asia - Message of support – LGU of Inabanga - Rational – SEEDS Asia
9:30 - 10:20	参加者の活動紹介と各地の気候変動に係わる現状と課題 （各グループ210分発表・質疑応答（10分）） - 兵庫県立姫路商業高等学校地域創生部（20分） - イナバंगा北中央校高等部生徒会・環境保全クラブYES-O（20分） - コメント+予備（5×2回）	Introduction of Participants' Activities and Current Status and Challenges Related to Climate Change in Each Country Presentation by Each Group (10 minutes) + Q&A (10 minutes) - Community Development Club of Hyogo Prefectural Board of Education - Inabanga North Central Integrated School - Comments + Buffer Time (5 minutes x 2 sessions)
10:30 - 11:30	イナバंगाの災害を語り返そう～台風オデットの被災者と語り合う～ （フィリピン様式の語り部）	Mag-estoryahanay Tal! - Sharing experiences of Bohol Earthquake and Typhoon Odette -
11:30 - 12:30	昼食	Lunch break
12:30-12:50	気候変動・気候危機時代における若者への期待 イナバंगा町役場（10分） 消防署（10分）	Expectations for the Next Generation in the Climate Change/Crisis - LGU of Inabanga (10min.) - Bureau of Fire Protection (10min.)
13:00 - 15:00	気候変動対応・防災アクションプラン会議 1. 課題の整理 混雑中で3つのグループ（20分）【プロブレムツリー】 2. 1の発表各5分×3グループを踏まえた優先課題の決定【オープンディスカッション】 3. 課題に基づく個別プラン作成【アクションプランシート】	Co-action planning of CCA/DRR in the Philippines and Japan 1. Issue Identification: Mixed-nationality groups into three teams (20 minutes) [Problem Tree Analysis] 2. 5-minute presentation per group x 3: Determination of priority issues based on all groups [Open Discussion] 3. Development of country-specific action plans based on identified issues [Action Plan Sheet]
15:00 - 15:20	気候変動・防災アクションプランの発表（国別） 日本グループ フィリピングループ	Presentation of the action plans for CCA/DRR Group of Japan Group of the Philippines
15:20 - 15:25	イナバंगा町役場、消防署、教員からのフィードバック	Feedback from LGU, BFP and teachers
15:25 - 15:30	Heal the World合唱 集合写真	Community Singing "Heal the World" Group photo session
15:30 - 16:00	閉会式 - 両校代表生徒の挨拶 - 両校先生による挨拶 - 閉会のことば - 質問票配布	Closing ceremony - Comments from both student representatives - Comments from coach of Community Development Club and school head of Inabanga North Central Integrated School – Secondary - Closing remarks – SEEDS Asia - Questionnaires

Figure 2 : 2024年日本・フィリピンの高校生による気候変動・防災フォーラムのプログラム

① 参加者の活動紹介と各地の気候変動に係わる現状と課題

各校 10 分で気候変動に関し、高校生が見てきたこと・感じている現状と課題、実施している活動について発表しました。



② 災害を振り返ろう～台風ライ（オデット）、台風ハイエン（ヨランダ）、ボホール地震、の被災者と語り合おう～

台風ハイエン 10 周年記念イベント（2023 年）で SEEDS Asia が行った「Estoryahanay : エストイヤーハーンナイ」と呼ぶ、質問と対話によって災害の記憶を「繋生：けいしょう」する、フィリピン流の語り部の時間を持ちました。これは、セブを中心とする中部ビサヤ地方の口伝手法（他者との対話・質問によって紡がれる自分史の語り）を基としており、質問や合いの手を入れながら記憶を共有いただくものです。ここでは、災害の教訓を伝えると共に、時に涙あり、笑いありの時間となりました。



③ 行政・防災担当部局からの気候変動・気候危機時代における若者への期待

地方行政（イナバング市）の防災課や消防局により、現状を踏まえた防災への若者への期待についてのメッセージをいただきました。



④ 気候変動対応・防災アクションプラン会議（3グループ）

フォーラムのメインイベントとしてアクションプラン会議をおこないました。日本からは3名の高校生が参加していたことから、3つのグループに分け、それぞれのグループで協議をおこなっていききました。

⑤



STEP1 アイディアソン

（気候変動から連想される課題・問題を出し合いました）



STEP 2 プロブレムトゥリー

連想されたものを原因と結果に分けて並べ替えていきました。



共有

STEP 2 の結果をみんなで共有しました。時間の都合上、STEP 3 として予定していたアクションプランはじっくり検討し、帰国後にオンラインで共有していくこととなりました。



フォーラムの最後に、一緒に歌を歌ってメッセージ交換

3. 現地視察・表敬訪問（2025年8月）

表敬訪問先（講義含む）：

- ラプラプ市防災管理局：ラプラプ市の現状と火災ハザードマップについての紹介



- フィリピン教育省第7地方事務所への表敬訪問・講義：学校防災の現状と課題



- フィリピン科学技術省大気地球物理天文局（PAGASA）ビサヤ管区視察・講義：フィリピンの気象と気候変動の現状と課題



- 日本国大使館セブ領事館表敬訪問：活動の報告・協力の御礼



Consulate General of Japan in Cebu

8月7日 · 🌐

On July 30, Acting Consul-General Mr. Toshio YADOMI welcomed the students from Himeji Commercial High School together with the Executive Director, Ms. Mitsuko OTSUYAMA of [SEEDS Asia](#). The school have a natural disaster risk reduction project with other institutions in the Visayas.

視察先：

- セブ州ラプラプ市の防災オリンピック視察・生徒との交流



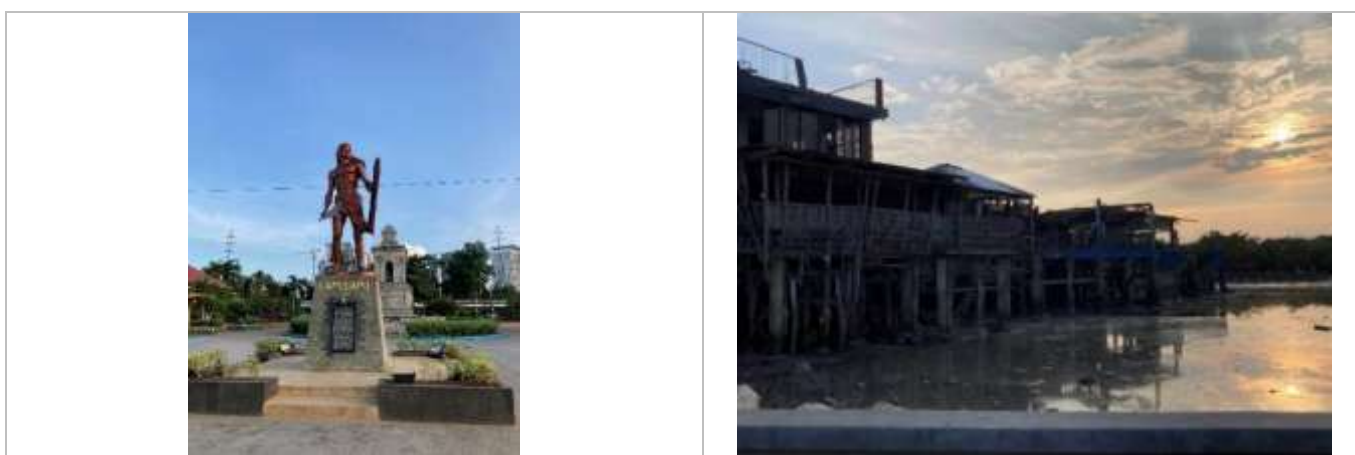
- チョコレートヒルズ



- ターシャ サンクチュアリ (野生生物森林保護区)



- マクタンシュライン (マゼラン記念碑・ラブラブ王勝利記念公園) と周辺



- 気候変動による海面上昇と、危機にある河川沿いのまちや島々の様子



・ 災害遺構・歴史遺産



マゼランの十字架



ボホール地震で落ちた鐘



イナバंगा断層
(ボホール地震の震源地)

4. 事業成果報告会

上記の活動内容を振り返ると共に、その活動から得た学びと、事業アプトプットしてのアクションプランについて、参加した両校の生徒からオンラインで報告・発信をおこないました（2024年10月28日）。

なお、事業最終日10月31日の時点で、再生回数は500回を超えており、その成果が広く発信されています。

事業報告会

**高校生の日比交流から得た
気候変動・防災の学びとこれから**

—フィリピンと日本の高校生の交流を通じた
防災分野の若手人材交流・育成事業—
2024年10月28日（月） 16:00～18:00
Facebook Liveにて開催（言語：英語）

■開催趣旨
「フィリピンと日本の高校生の防災人材交流・育成事業」は、災害が増加する中、日本とフィリピンの高校生が交流を通じて知見を広げ、防災分野でのリーダーシップを育むことを目的としています。
本事業を通して、兵庫県立姫路商業 高校とボホール州 イナバंगा北中央校高等部はオンラインや対面での会合を通じ、交流を続けてきました。
今回の最終報告会では、両国の高校生がこれまで行ったオンライン会合と現地視察やフォーラムで得た学びを共有し、次世代の防災リーダーとしての意識を高め、国際協力の深化を目指します。

■主催【認定】特定非営利活動法人 SEEDS Asia（シーズアジア）
SEEDS Asia は、阪神淡路大震災を機に設立された防災専門 NPO/NGO で、災害に負けない人づくり・まちづくりを通じて持続可能な社会の実現を目指しています。
連絡先：SEEDS Asia 大津山 光子
078-766-9412 / mitsuko.otsuyama@seedsasia.org

■後援 一般社団法人東京倶楽部

■プログラム（予定）
16:00 開会
16:20 活動の振り返り
17:00 学びと対話を得て、作成した「ヒマノガ」アクションプランの紹介
17:30 学校長・教職員・参加者との意見交換
18:00 閉会

■場所（オンライン）
SEEDS Asia Facebook ページにて開催
↓ SEEDS Asia Facebook ページ ↓
QRコード

【認定】特定非営利活動法人 SEEDS Asia

時刻/Timing	活動内容	Activities
J: 16:00 P: 15:00	開会 挨拶：SEEDS Asia 理事 角崎悦子 お言葉：初代セブ総領事、元外務省国際緊急援助官 川崎 敏秀様 お言葉：イナバング市長 本日の流れの説明 (SEEDS Asia)	Opening Ceremony - Welcome remarks – SEEDS Asia Board member, Ms Etsuko Tsunozaki - Message of support – The Tokyo Club, - Message of support- Mayor of Inabanga - Rational – SEEDS Asia
J: 16:20 P: 15:20	活動の振り返り(ビデオ含む) : ①ビデオ (3分) ②オンライン交流会 (3分) ③気候変動・防災フォーラム (3分) ④学校訪問・現地視察 (3分) ⑤表敬訪問 (3分)	Review of the project (Including video) : 1. Video (3 min) 2. Online Meetings 3. CC/DRRForum 4. School visit and site visits 5. Courtesy visits
J: 17:00 P: 16:00	学びと対話を得て、作成した「ヒメバンガ」アクションプランの紹介 ①姫路商業高等学校 地域副生部 (15分) ②イナバング北中央校 生徒会・ユース環境保全クラブ (YES-O) 部 (15分)	Introduce the "HIMEBANGA" action plans created through learning and dialogue between the Phillipine and Japan - Himeji Commercial High School Community Development Club - Inabanga North Central Integrated School SSLG and YES-Oclub
J: 17:30 P: 16:30	担当教員 or 校長先生からの一言 参加者からのフィードバック	Comments from the teacher in charge or the Principal Feed back from the participants
J: 18:00 P: 17:00	閉会 - 両校生徒による挨拶 - 閉会のことば - 質問票配布	Closing ceremony - Greeting from learners from each school - Closing remarks – SEEDS Asia - Questionnaires

開会

Welcome Remarks

Ms. Etsuko Tsunozaki
Board Member of SEEDS Asia

SEEDS

Himeji Commercial High School THE TOKYO CLUB

Message of Support

Mr. Toshihide Kawasaki
Former General Consul of Japan in Cebu
Former Director, Overseas Disaster Assistant Division, Ministry of Foreign Affairs

THE TOKYO CLUB

SEEDS Himeji Commercial High School THE TOKYO CLUB

活動の振り返り

Online Cross-Learning Session

Himeji Commercial High School from Japan CDC

Inabanga North Integrated School - Secondary

Japan-Philippines youth forum

Climate Change and Disaster Risk Reduction

School and Site visits

Courtesy visits

学びと対話を経て作成したそれぞれのアクションプラン



アクションプランへのコメント（各校校長先生から）



各校生徒代表の挨拶



閉会と集合写真



V. 事業成果

上記の活動を通じて目指していた6つの期待していた成果について、両国の生徒からの質問票への回答を基に紹介します。

1. 両国における防災文化の醸成と防災の担い手増加：

参加した高校生は、気候変動の影響は今後も継続し悪化する傾向にあることを学び、予防（温室効果ガスの削減）と適応（発生しうる異常気象や洪水への対策）があらゆるレベルで必要となっていることを、交流・視察という体験を通じて実感することができました。**本事業のアウトプットとして、「アクションプランの策定」をおこない、これから実施する活動を高校生自らが提示し、現在それぞれの国・地域で担い手として取り組み始めています。**

気候変動は進行形の事象であり、記録が更新されている「未体験」のものであります。こうした過去の経験に依拠することができない状況に対応していくためには、予測研究について知ること、平常を知ること、異常を知ること、そして他国・他地域から学び、協力し合うことで、未体験の事象に対峙していくことが有効であると考えています。

フィリピンでは、すでに度重なるスーパー台風（風速 67/毎秒 130 ノット以上。日本の気象庁が設定している猛烈な台風を超える台風）による被害の他、山火事、森林破壊、生態系の変化や健康被害、居住地の移動などが発生しており、日本でも熱波による健康や農作物への影響、台風、海藻・漁業への影響が出ています。**参加した高校生は、気候変動の影響や対策は国によって異なるものの、共通の課題となっていることも交流・視察を通じて知見を深めることができたことが、事業終了時のアンケートでも明らかとなっています。**

Q.1 I learned more that climate change is affecting various parts of the Earth in different ways. 気候変動による多様な影響がすでに地球のあちこちで及んでいることをより学んだ
7件の回答

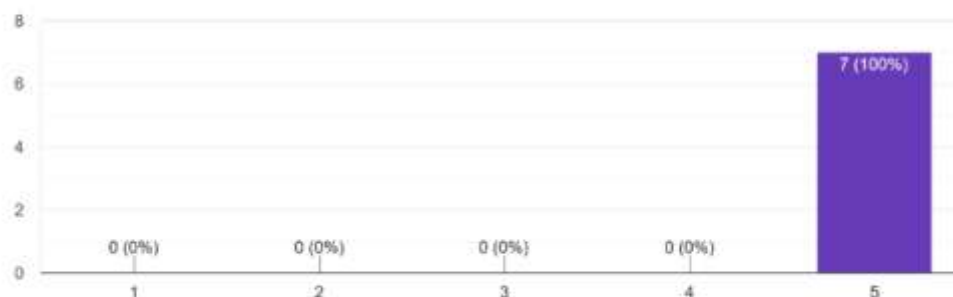


Figure 3: 10月28日実施最終報告会後のアンケートQ.1結果(n=7)

両国間で課題の共有と学びを得て、「自分たちにできることは何か」を話し合い、地球規模の大きな課題をそれぞれの身近な場所から自ら解決していく計画を「アクションプラン」として策定しました。

アクションプラン要約版：イナバング北中央校 INCIS

Issues 困りごと	Possible activities for solutions 解決に向けた活動	Ideal condition どうなってほしいか	With whom? 誰と一緒にする？	When and how often 実施時期・頻度	Indicators 評価指標	Monitoring time
Improper Garbage Disposal	<ol style="list-style-type: none"> Integration of proper disposal and segregation of garbage during class lessons on Homeroom Guidance Program (HGP). Application of proper disposal and segregation of garbage. Monitoring of proper disposal and segregation of garbage. 	<ul style="list-style-type: none"> INCIS Students will be able to segregate and dispose garbage properly instead of improper disposal of garbage and/or burning the garbage. Apply proper segregation and disposal of garbage at school and in their homes. Evident in the monitoring that garbage is already properly segregated and disposed resulting in cleaner classrooms. 	<ul style="list-style-type: none"> Classroom advisers will integrate a lesson about proper segregation and disposal of garbage during their Homeroom Guidance Program (HGP) class. All students will apply the proper segregation and disposal of garbage. SEEDS Asia Grade Level Representative together with YES-O Grade Level Representative in each section will monitor if garbage is properly segregated and disposed. 	<ul style="list-style-type: none"> Weekly integration during HGP Daily application of proper segregation and disposal of garbage. Daily monitoring of proper segregation and disposal of garbage 	<ul style="list-style-type: none"> Lesson Plan Monitoring that has integration and disposal of garbage. Checking of garbage if properly disposed and segregated. Garbage is now properly segregated and disposed as evident in the monitoring. 	<ul style="list-style-type: none"> Weekly monitoring of lesson plan. Daily checking Daily monitoring by the SEEDS Asia Grade Level Representative together with YES-O Grade Level Representative in each section.
Weather Forecast Illiteracy	<ol style="list-style-type: none"> Lesson integration Weather Diary 	<ul style="list-style-type: none"> Students literacy on the different weather conditions Students can determine the normalities and abnormalities of weather conditions. 	<ul style="list-style-type: none"> Teachers and School Head Students and Teachers 	<ul style="list-style-type: none"> Quarterly (depends on the topic) Daily 	<ul style="list-style-type: none"> Lesson Plan monitoring Per Section Daily Diary 	<ul style="list-style-type: none"> Quarterly Daily

アクションプラン：兵庫県立姫路商業高等学校

困りごと	どうなってほしいか	解決に向けた活動	誰と一緒に？	実施時期・頻度	評価指標
温室効果ガスが地球・人体に及ぼす影響について理解していない。	温室効果ガスを減らす運動を自分の家で取り組む	温室効果ガスやそれが地球・人体に及ぼす影響について地域創生部員がポイントを用いて小学生に説明をする。(低学年用・高学年用) また、温室効果ガスについての理解度を確かめるためにアンケートを集計する。(授業内で取り組むことにより、生徒のモチベーションの差を最小限にする。)	中学生 姫路市の小学生 に出張講座	・1学期(4～7月) ・2時節程度の出張講座を3回程度 (100人以上を対象)	小テストの点数が8割以上
自分たちの行動がどのように気候変動に影響しているのかわからない、他人事を感じている	自分の行動を改めて、普段の生活でも日常的に取り組んでもらう	【知ってもらおう】企業様とSEEDS Asiaと協力して簡単に作られるような模型を使って体験型の発表にする どのような行動が温室効果ガスを減少させられるのかを、ブレインストーミングを通じて意見を出し合い、各グループで発表する。(ヒント多め) 子どもの顔にお話して子供にも体験型の防災を行い、教えること重視 (ヒント多めの防災クイズなど) 【行動できるようにする】学校のゴミ箱に紙とそれ以外の分別をわかりやすくする クイズ大会や体験型のイベントを行う 飲料水のフタにペットボトルの再利用方法を記載してもらおう 気候変動で起こる現象を劇、動画(SNSに上げる予定)で伝える 【広く伝える・社会のトレンドをつくる】 節約ポスターを作る/危機感を感じるポスターを作る(対象にあつたもの) ポスターを地域の回覧板で回してもらおう/地域の掲示板にポスターを貼ってもらおう/販売店の時にチラシを作った配る/ラジオ(学校や地域)と気候変動等の話をする/ 啓発動画の作成	体験型教材の共同開発 ・企業様 ・SEEDS Asia様 ワークショップ ・子どもの部員 ・姫路市の小学生 学校関係者 企業 地域創生部員 地域 学校 企業	・1学期(7～8月) ・2時節程度のワークショップを3回程度 (100人以上を対象) イベントは 年に約2回 ずっと掲示しておく (3ヶ月に1回アンケートをとる)	4段階評価アンケートでよくわかった、わかったが全体の65% ゴミが分別されているか確認 (ごみ収集日前) 小テスト8割以上 理解できたかどうかアンケートを作って人々に配る (QRコードやシールを貼る)

Q. これからどのような学びや活動に取り組めますか？

What specific topics and activities would you like to learn or take action?

- 日々更新されていき、前例のない気候変動の影響を予測して早くから対策をしていくために、気候変動によって絶滅してしまう可能性のある植物（コーヒーなど）や動物、夏の気温などを紹介してより現実味のある未来を知ってもらう活動です。具体的には、ポスター、ラジオ（市民ラジオ・校内ラジオ）、SNS、イベント、小中学校への訪問講座での警鐘活動。
- 気候変動の具体的な対策法などのポスターをつくり回覧板や地域の掲示板に貼ってもらう
- 今回学んだことを、より多くの人に伝えるために、まずは気候変動に対する意識の低い私の学校から地域へと広げていくような活動にしました。まずはゴミ箱の分別、気候変動によるポスターを作って貼ったり、受け身の発表ではなく、動作や状況でも覚えてもらいやすいように体験型の発表を出張授業をすること。気候変動に対するパンフレットやチラシを作って販売実習などで配ることおとなや子どもも楽しみながら気候変動について学べる、（ペットボトルで植物を植えてみようなど）イベントを開くことです。
- For me, I would like to learn and take immediate action of how to lessen the effect of climate change because as I see our world today climate change is very hazardous to us.
- As a student, I will focus on proper garbage disposal, a basic action in order to help lessen/mitigate the impact of Climate Change

2. 地球市民としての意識の芽生え

気候変動など地球共通の課題について共に考え、両国間の高校生同士が対話を重ねたことにより、両国の高校生に同士としてのつながりが生まれました。また、同じ事象であっても、その対策や制度、慣習の違いを知り、お互いの情報を共有し学び合うこと、尊重し助け合うこと、身近なところから活動を始めることの重要性を高校生が強く認識できるようになりました。

Q. どのような変化がありましたか？

What specific changes you think of?

- 日本はフィリピンと同じように地震大国であって、学校でも、学ぶ機会が何度もあり、私たち地域創生も家族も地震については知識があり、行動にも移せるようになりました。ですが、気候変動についてはまだ浸透し切っていないのかなと思います。わたしも、フィリピンの交流会を通じて、こんなにも気候変動は身近な物で、刻一刻と状況は悪くなっていていることをはじめて実感しました。このことから、私は気候変動のことを地震の時と同じように、家族から広めていきたいと思っています。
- 前までは、防災についてしか考えてなかったが今回のフォーラムを通して気候変動にも興味をもち、地震などでフィリピンも日本と同じように土砂災害などの被害があると知る事ができ、様々な視野が広がった
- 地震の知識はあったのですが、元々気候変動についての知識は全くありませんでした。ですが、フィリピンのZoomを通して気候変動に対して対策をすることが大事なこと、またこの活動を次世代にも伝えて行かなければならないのだと明確に感じるようになりました。そして、将来にもこのことを繋いでいきたい、これを今度は私からみんなに伝えていけるような人になりたい（そのようなお仕事にもつきたい）と思うことができました。また、フィリピンの気候変動に対する対策では、学校で取り組みやすいアクションプランを考えていて、是非参考にしたい！と思った案を取り入れて改善していくことでより良いプランができていくような変化も感じました。
- Being well-informed and responsible enough especially about the environmental problems.
- The specific changes I think of is in terms of boosting my knowledge and confidence to speak in many people.

3. 若者参画の重要性を発信

本事業では、プログラムで得た知見や経験を、参加した生徒が一過性のものや、「個人的な体験」のみで終わらせることなく、アクションプランを策定・実行することで課題解決を担っていくことを期待しています。また、こうした若手の担い手を一人でも多く増やしていくことが、地域防災における高校生の役割を変容させ、地域の防

災力向上、地域の持続性に寄与します。アクションプランの実行を通じて、若者参画の重要性がますます高まることを期待します。

Q.3 As the impacts of climate change continue to expand and worsen, I have realized the importance of deepening our knowledge and taking action towards improvement as the next generation responsible for the future.

気候変動の影響がますます拡大・深刻化する中、次世代を担う自分たちが学びを深めること、改善に向けた活動を行っていくことが重要だと感じた

7件の回答

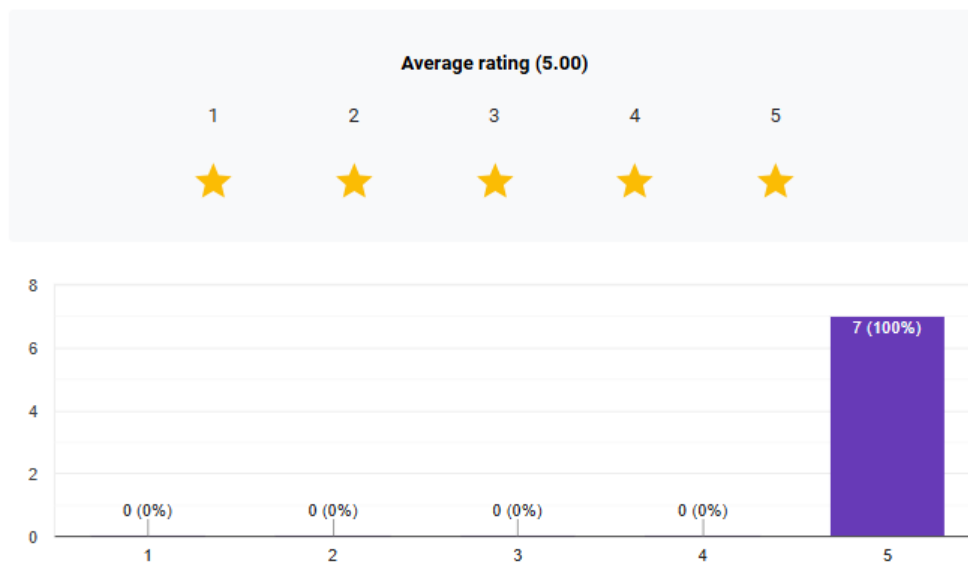


Figure 4: 10月28日実施最終報告会後のアンケートQ.3結果(n=7)

Q.10 I feel that the expectations for my role from my family, school, or neighbors have changed. 家族あるいは学校、近所の人などから、期待される役割が変化したと感じる

7件の回答

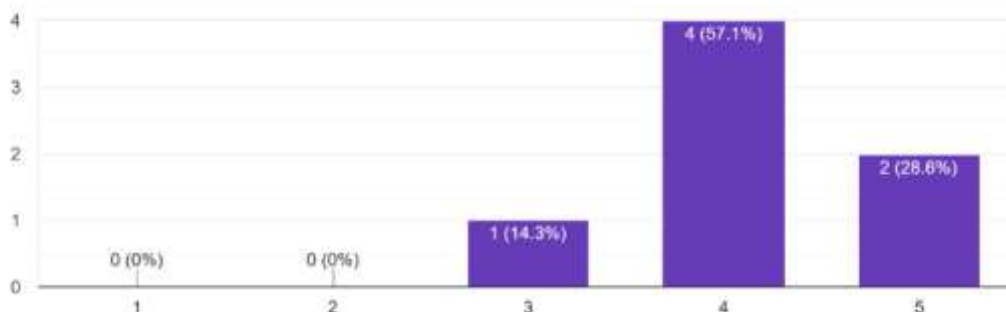


Figure 5: 10月28日実施最終報告会後のアンケートQ.10結果(n=7)

4. 異文化体験による多文化理解と配慮の必要性の学び

気候変動は、国境を超えた世界共通の課題です。この問題は、他の国と協力しなければ解決や改善ができません。そのため、このプロジェクトでは、気候変動への理解を深めると同時に、異文化交流を通じた国際理解も大切にしています。

両国の高校生が異文化体験を通じて、多文化理解において重要な視点として掲げたポイントは「交流したいという気持ち」「言語（英語）を学び慣れること」「信頼関係を構築するよう努めること」「相違点を見つけること」でした。交流において実践した工夫や学びが、日本における多文化理解・多文化共生社会の実現にも寄与することが期待されます。

例えば、日本にも多くの外国人が暮らしていますが、高校生が外国人と交流をしたり、日本での生活に関する課題について尋ねたりする機会はほとんどありません。しかし、海外に行くことで、自分が「外国人」となる経験ができます。日本では当たり前を理解できる道路標識や公共アナウンスも、海外では分からず不安を感じるがあります。このような経験は、日本で暮らす外国人や旅行者の気持ちを理解する大きなきっかけになります。外国人や少数派の立場になって考えることで、他者への理解が深まります。この視点は、災害時に要支援者へ配慮する際にも非常に重要な視点です。

また、質問票の結果からは、言葉や文化が違う中でも、お互いに理解し合うために生徒たちが工夫を重ねていたことが分かりました。言葉を学ぶ努力をすること、ジェスチャーを使うこと、翻訳アプリや写真、イラストを活用することなど、状況に応じてさまざまな方法でコミュニケーションを取る姿が印象的でした。

Q.5 I felt that diverse strategies and efforts are necessary to communicate effectively in a context where languages and cultures differ.

言葉や文化が異なる中で、意思疎通を図るためには、多様な工夫や努力が必要であると感じた。

7件の回答



Figure 6 : 10月28日実施最終報告会後のアンケートQ.5結果(n=7)

📌 Voice from learners/生徒からの声

Q. 言葉や文化が異なる中で、意思疎通を図るためには、どのような工夫や努力が必要ですか？

- まず、相手の文化を受け入れること、言語が分からなくてもアプリで翻訳したり、ジェスチャーで伝えたり工夫する事、そしてなにより、**交流したいという気持ち**が大事だと思いました。
- ユニバーサルデザインを使ったポスター
- 話すときは、相手が理解しやすいようにゆっくり落ち着いて話すこと、また分からなくても頷いたりして聞くこと。そして事前準備では質問などを聞かれた時にさと言えるようにフレーズ集を覚えたり、文法を学び直したり、気候変動に関する単語を覚えたり、毎日英文を呼んで**英語に慣れるように工夫**しました。
- **Building trust** is crucial for effective cross-cultural communication. Active listening skills demonstrate respect for others' perspectives while expressing empathy helps create connections on a deeper level. Being aware of our own biases allows us to approach conversations with an open mind.
- **Understand both the similarities and differences between us.** Through this, I can able to communicate them effectively, and also showing/giving respect towards each other.

5. 地方の持続可能性を推進

両国の参加生徒は、グローバルな課題である気候変動が、地域（ローカル）課題と直結していることを、両国の現状の共有によって知見を深めていきました。これによりグローバル課題の解決にも寄与しながら「自分たちのまちを守るための活動を進めていきたい」という意欲が深まったことが明らかとなっています。

地球の共通課題として、気候変動の影響の一つである海水温の上昇が、スーパー台風の発生を招くこと、災害の頻発化や激甚化につながっているという状況が両国の発表から明らかとなりました。日本では、猛暑日や土砂災害の増加のほか、「いかなご」を事例として、魚種・漁獲量の減少といった影響で、漁業関係者の家計の圧迫、そして地域の魅力や産業の衰退化といった課題が共有されました。また、フィリピンからは台風の増加はもちろん

ん、森林火災や健康被害、居住地の移動と貧困など、気候変動が生活を脅かす事態となっており、禁止されているダイナマイト漁法が使われるなど、生物多様性や倫理的問題も共有されました。

Q.7 I felt motivated to further advance activities aimed at protecting the way of life in my community, taking into account global issues such as climate change.

気候変動などのグローバルな問題を踏まえながら、自分が住むまちの暮らしを守るための活動をより一層進めたいと感じた。

7件の回答

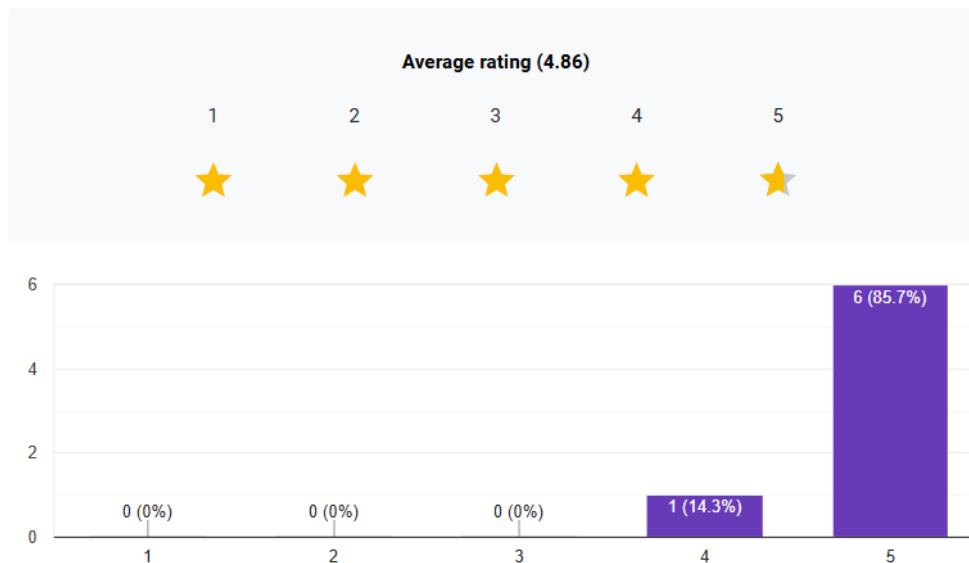


Figure 7 : 10月28日実施最終報告会後のアンケートQ.7結果(n=7)

6. 日本とフィリピンの関係強化

本事業を通じて、日本とフィリピンの高校生が直接つながり、共に学び合うことで、互いの国に対する関心が高まったことが確認されました。単なる知識の共有にとどまらず、実際に相手国の現状を知り、共感し、深く理解しようとする姿勢が見られました。

特に昨年はフィリピンで地震や台風などの自然災害が多発し、日本の高校生も「遠い国の出来事」ではなく、友人が住む場所のこととして関心を持ち、心配する姿が見られました。SNSなどを通じて現地の情報を得たり、交流を続けたりする中で、「何か自分にできることはないか？」と考える生徒もいました。

また、フィリピンの高校生にとっても、日本の自然災害や防災対策への理解が深まりました。日本の防災教育や災害対応の工夫に興味を持ち、自国で応用できる点を積極的に学ぼうとする姿勢が見られました。こうした双方向の学びは、単なる知識の交換にとどまらず、お互いの文化や社会への理解を深める貴重な機会となりました。

このような関係性の構築は、単発のイベントにとどまらず、今後の継続的な交流や協力の土台となります。若い世代が互いに学び合い、支え合うことで、日本とフィリピンの関係がさらに強くなり、国際協力への担い手として発展していくことも期待されます。

Q.8 日本とフィリピンの高校生が共に学び協力していくことが、より大切だと思った。

I realized that learning and collaborating with friends from both countries is even more important.

35 件の回答



Figure 8 : 日本・フィリピンの高校生による気候変動・防災フォーラム実施後のアンケート Q.8 結果から

Q. フォーラム（7月実施）では何が楽しかったですか？

- フィリピンの語り部の話を聞いて日本との共通点、相違点を考えたり日本でのアイデアなどを話し合ったり、また一緒に会話を楽しめてとても楽しかったです。
- 沢山のイナバングの生徒や先生、消防署の方など、多くの人に関わってくれていて、凄く嬉しかったです。そして、語り部さんの洪水のお話が凄く津波の語り部の内容と似ていて、頭が硬い人は避難が遅れ、巻き込まれてしまうと聞いてやはり、警告アラートになるとより遠くへ逃げるというのが大切だと感じました。他にも色々な発見があって凄く興味深かったです！
- イナバングの高校生とのコミュニケーションが楽しかった。次会う時には、英語をもっと話せるよう頑張りたい
- I really enjoyed the topic about Climate Change, and for the next topics to discuss in the future, I want to talk about our lives in the future, discussing the activities that we've made in order to mitigate climate change
- Today's forum was very fun. All the topics really caught our attention and interest. Surely, this will help us to mitigate natural hazard and avoid disaster in the future.
- This this was very enjoyable and memorable for me because of the opportunity to meet the students from Japan I really happy for today's event, next topic I want to discuss near future is about their culture, their way of living and also to see their beautiful country. I would like to share to everyone that this this was very memorable for me and I cannot forget this day, I'm very happy to meet the students in Japan and I hope there is also another opportunity to meet them again I really hope to meet them that's all thank you so much, SEEDS ASIA I really really happy for this event thank you very much!

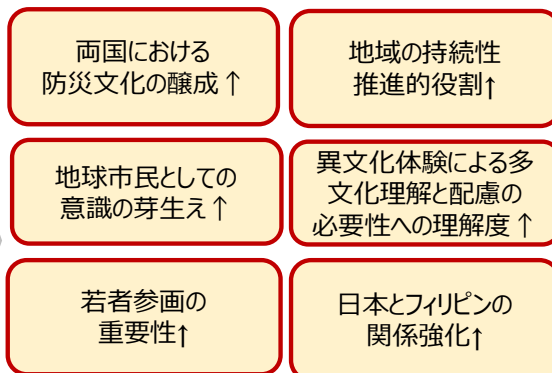
提供したかったこと： 「Transformative Travel/Tourism Experience (TTE：変革的旅行体験)」

**TTE：旅行をきっかけに
既存の価値観や世界観
に変化が起こる経験**

**契機となる旅行において、
未知なる環境・新しい方法
で対処する経験を通じて**

- ・自己肯定感の向上
- ・他者受容感の向上
- ・批判的思考の向上
- ・パーソナリティの変化

鮫島, 卓. (2022). 「旅を通じた学びを科学する—認知科学的な考察」『ていくおふ』. Vol.175. 34-41
 取得元: https://researchmap.jp/same_taku/published_papers/48156685



アンケート結果や、「Voice from learners/生徒からの声」から、本事業が目指していた6つの期待していた成果（①両国における防災文化の醸成と防災の担い手増加 ②地球市民としての意識の芽生え ③若者参画の重要性を発信 ④異文化体験による多文化理解と配慮の必要性の学び ⑤地方の持続可能性を推進 ⑥日本とフィリピンの関係強化）をある程度確認することができます。一方、厳密には①両国における防災文化の醸成と防災の担い手増加においては、事業のアプトプットであるアクションプランが実際に実施されて初めて「事業成果は確実に達成」ということができます。本事業に参加した高校生には、個人的な学びや成長の体験のみで終わらせることなく、社会課題に向き合い改善・解決に向けた取り組みを担ってほしい、という願いと期待を持っています。

この願いを実現するには参加した高校生一人一人の「変革」を生み出す機会を要します。本プログラムではオンラインでの視察前交流を準備期間として、日本の高校生が現地に赴きリアルな交流をすることで、この変革を生み出す「Transformative Travel Experience (TTE：変革的旅行体験)」を生み出すことを念頭においてプログラムを計画しました。TTEは、「旅行をきっかけに既存の価値観や世界観に変化がおこる経験」²と定義さ

² 鮫島, 卓. (2022). 「旅を通じた学びを科学する—認知科学的な考察」『ていくおふ』. Vol.175. 34-41

取得元: https://researchmap.jp/same_taku/published_papers/48156685

れ、未知なる環境の中で今までの「当たり前」ではない新たな方法で対処する経験と、その内省・振り返りによって、自己肯定感や他者受容感、そして批判的思考力の向上や、冒険心や思いやりといったパーソナリティの変化を生み出すものと言われています。中でも、旅先でのリアルな交流や体験の中で発生する「わからない状態」や「想定外の状況」の中で、「あたりまえ」という今までの認知スキームを崩すことが、「生きた知識」となり、自ら探し・考え・実践していく主体的な学びへの変革を生み出すことが明らかとなっています。

フィリピンの高校生にとっても、今回「初めてマイクロバスに乗った！」と喜ぶ姿や、生活圏を初めて出たことや、日本からの高校生と共に意思疎通に苦労しながらもホテル会場で話し合った経験は生涯忘れることのできないTTEの一つとなったはずです。実際、質問票の結果からも「想定外の事態を経験したこと」がすべての生徒の回答に見られており、ツールの活用や相談・協力することによって克服・対応した経験が述べられています。

このような変革を経たからこそ、生徒自身が主体的に課題を見つけ、解決のための活動を提案し実施する取り組みへとつながることができると思っています。その形として、アクションプランがあり、これからの実践に強く期待すると同時に、事業の「真の成果」をワクワクしながら把握していく予定です。

Q. プログラムを通じて自分自身に変化があったと感じますか？

Do you feel that you have changed through this program?

	全く変化していない	あまり変化していない	ある程度変化した	とても変化した
気候変動や防災の知識	-	-	-	100%
気候変動や防災についての体験	-	-	33.3%	66.6%
つながり	-	-	-	100%
自信	-	-	100%	-
他者を理解すること		-	66.6%	33.3%

中島実穂, 小口孝司. (2023). 「日本人はどのように変革的旅行経験を得るか？—テキストマイニングによる検討—」『第38回日本観光研究学会全国大会学術論文集』, 131-134.

取得元: https://www.jstage.jst.go.jp/article/jitrproceedings/38/0/38_131/_pdf/-char/ja

新しい学びや経験への意欲	-	-	-	100%
日々の選択や行動		-	-	100%

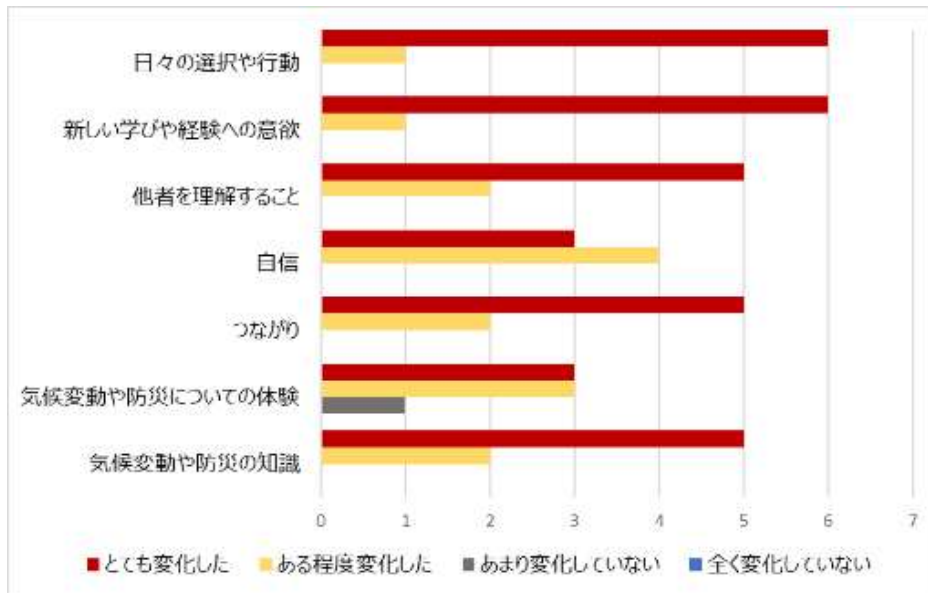


Figure 9 : 10月28日実施最終報告会後のアンケート Q.11 結果(n=7)

Q.8 During this project, were there any unexpected situations or challenges that you needed to face? 本事業の間、想定していなかったような状況や困難なことはありましたか？
7件の回答

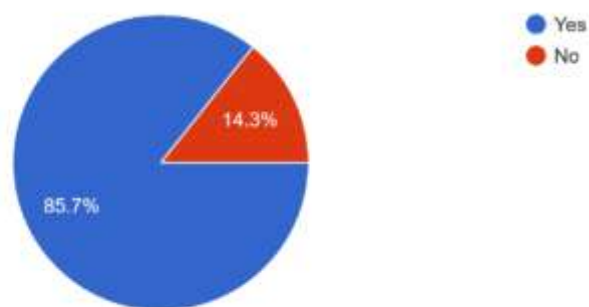


Figure 10: 10月28日実施最終報告会後のアンケート Q.7 結果(n=7)

想定外の事態や状況をどのように乗り越えましたか？

How did you overcome unexpected situations or challenges?

- 自分で調べたり、頼れる周りの人に頼ってみたり、相談したり、時間をかけて皆で解決したりしました。
- スマホを使って、翻訳をしたりイラストを見せて乗り切った
- オンラインの Zoom で、元々準備していたはずの原稿が最後の部分だけ翻訳されておらず、パニックに陥りましたが元々英語に目を慣らしていたり気候変動に関するフレーズを言えるようにしていたので、即座に英語を組み立てて言うことができました。また、想定していなかった質問を投げかけられた時、はじめは分からずに焦るだけでしたが 2 回目からは落ち着いてアドリブで喋ることができました。また、学校と両立する中で原稿や、やらなくてはならないことを短期間で終わらせないといけないときに、グループでみんなが平等に仕事が回ることを、しっかり終わらせることができるように予定をしっかり立てて終わらすことができました。
- One of the unexpected situation/challenges I've faced, aside from the main purpose/topic, is having an online meeting, f2f (face to face) interaction and fb public live because, to be honest, I'm not too confident in speaking in front of any audiences, but I took the opportunity to be part of this, and through this, it really observed changes in myself. It really really help me and us a lot.
- I just thought of positive things and I did overcome those challenges by thinking of the good things must happen after this problem I should not think negatively and make it better next time.

Q. この交流プログラムに参加して、よかったことはどのようなことがありますか？

How and what did you enjoy the program for last half year?

- まず、シーズアジアの皆さんや、イナバングの皆さんと出会えたことが嬉しかったです。気候変動に真摯に取り組む姿をみて、私も行動しないとと思われました。たくさんの人に出会って、色んな視点の話を聞いて、前よりも視野が少し広がったのもよかったことです。
- 海外に行くという貴重な体験をできてよかったし、普通の旅行だったらいけないような場所に色々に行かせてもらい、自分の視野が広がったなと思います。大津山さんが「ラッキーな体験をしたらそれを伝える義務がある」と言っていてその通りだなと思ったので、来年自分が新一年生に今回の経験を教えないとないと思いません。
- この交流プログラムに参加させていただいたお陰で、本当貴重な体験をさせていただきました。気候変動についてはスマホで調べれば沢山情報は出てきますが、やはり実際に訪れて話を聞き、地球温暖化による現状を目の当たりにすることで、地球温暖化対策を私たちが必ず解決していかなければならない、そしてこのことを未来に次世代にも伝えていかなければいけないと強く感じることができました。また、私たちがどのようにしたら学校でもみんなが取り組んでくれやすくなるのか頭を悩ませていたのですが、フィリピンと交流していくにつれて、ゴミ箱の分別など身近なところから考える案を聞いてこのような解決方法があるのかと新しく学び、これからの活動に繋がるような案が多かったです。また、英語は少し分かる程度で話すことに全く自信がなかったのですが実際に喋るとみんなが頷いて聞いてくれて、また、このように話すんだよと教えてくれたり、沢山反応してくれたお陰で英語を話すことへの自信がつくようになり、楽しく話すことができるようになりました。また、自分がどのような人になりたいのか悩んでいたのですが、このプロジェクトを進めているうちに、私からこの気候変動のことを伝えられるような、日本と海外を繋いでいけるような人になりたいとはっきり決めることができました。
- I would like to send my gratitude to the SEEDS Asia team for creating, and giving this wonderful opportunity to the people especially to us and to me, on the first day I'm not interested of it however, as I attended to every session I just realized that, wow this organization (SEEDS Asia) is the seeds to the wonderful and better future, because it is not just helping people but also changing the world into better and safer world, As a participant learner of INCIS I'm very thankful to be part of this activities were I learned a lot in terms of Disaster Risk Reduction, Climate Change and other topics we have discussed in the past online session, especially when I meet the selected students of Japan it made me want to go and see Japan. I learned that the citizens there is very discipline and responsible how I wish that all

much SEEDS Asia team, in you, I change a lot in good ways and learned a lot of things. And now, I am hoping for more activities and learnings for the better future also, I really wish to see Japan and know more about this country, that all I want to share thank you so much and I'm looking forward for other activities thank you!

- So thankful and lucky as part of this program, because of this, it doesn't only help us to take actions for the environment but it helps us/me to be better and it helps for my growth and development as a student/youth. And it drives me to do good actions that help for having changes in our environment.

追記

なお、本事業に参加した兵庫県姫路商業高等学校地域創生部は 2024 年 11 月 3 日に開催された、第 11 回「商業高校フードグランプリ」で優勝（文部科学大臣賞）を取めた。審査委員長（伊藤忠商事 岡本社長）からは、全ての学校で高いレベルの活動が展開されているものの「日本以外のグローバルな部分を見据えた」点で他校を凌駕したことが評価されたようです。ご一緒に活動ができたこと、そして高校生の活動の舞台を広げるご支援をいただきましたことを深く感謝申し上げます。

<https://f-weeklyweb.com/pickup20241105/>

さらなる活動へ

第11回「商業高校フードグランプリ」決勝大会を開催



文部科学大臣賞は、兵庫県立姫路商業高等学校「みれ館パン」



審査委員長と特別賞授与者

「おめでとうございます。非常に素晴らしい卒業を乗り越えてきた各校、今日の本賞は非常にレベルが高かった。味とか経済性、心情的な部分・エモーショナルな部分も意識したプレゼンテーション、モノづくりに熱心した。姫路商業高等学校が優勝しましたけど、正直驚いて大接吻。優勝が栄えり手となったのは、優秀チャンネルとしてふるさと納税を考えたり、あるいはマーケットとして日本以外のグローバルな部分を見据えた。この部分が若干な部分で優勝に結びついた。」
姫路商業高等学校のメンバーは、「本当にここまで来た甲斐があった。これから先も日本全国に、防災意識、海外にもふるさと納税の防災意識を高めていくための活動していきます。」と力強く語った。



フードWeb ウィークリーより抜粋

<https://f-weeklyweb.com/pickup20241105/>

VI. 実施体制・スケジュール

フィリピンと日本の高校生の交流を通じた防災分野の若手人材交流・育成事業

(略称：日本・フィリピン高校生防災人材育成・交流事業)

Youth Development in Disaster Risk Reduction through Cross-Learning Programs between High School Students in the Philippines and Japan

	2023 年度						2024 年度							
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
1. 関係者の合意		説明・対象校の決定												
2. 資金調達	申請				資金の確定									
3. プログラムの実施（オンライン交流・現地視察）						準備	実施							
3-1. 学校パンフレット作成（英語）						英語版								
3-2. 現地教育省第 7 地方事務所への交渉														
3-3. 現地の交流対象校の決定		決定												
3-4. 現地視察・交流スケジュールの決定								決定						
3-5. 渡航前しおりの作成・安全管理研修									実施					
3-6. 渡航前安全管理研修														

4. 現地視察（渡航）															
4-3. 旅程とプログラムの確定（アポイント・会場準備含む）															
4-2. 保護者向け説明会・同意書署名・緊急連絡網															
4-3. 現地渡航に係る詳細の決定・支払など															
5. 事業報告														報告会	

一般財団法人 東京倶楽部
 事業助成、現地渡航、事前交流会などへの参加・アドバイス

兵庫県立姫路商業高等学校
 校長：米谷 繁先生
 地域創生部顧問：北川 欽一先生（主幹教諭、生徒指導部副部長、震災・学校支援チーム（EARTH））

SEEDS Asia
 プログラムの実施にあたる企画・調整・運営・安全管理
 神戸本部：大津山、有馬、他1名（会計担当）
 フィリピン事務所：菅谷 現地職員4名

Published by **SEEDS Asia**

658-0072 神戸市東灘区岡本 1-7-7-307
TEL. 078-766-9412 FAX. 078-766-9413
EMAIL rep@seedsasia.org
URL www.seedsasia.org

1-7-7-307 Okamoto, Higashi-nada ku, Kobe
658-0072 JAPAN
TEL. 078-766-9412 FAX. 078-766-9413
EMAIL rep@seedsasia.org
URL www.seedsasia.org